



第152号 令和2年9月23日発行

# 総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。

スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくら



スポーツ振興くじ助成事業

## 特集 PDCAサイクルにより運営の改善等を図るクラブ

▶▶▶ NPO法人中山総合スポーツクラブ

▶▶▶ うすねニュースポーツクラブ

公共施設を活用しているクラブ

▶▶▶ NPO法人習志野イースタンスポーツクラブ

## 特別企画 地域の特性を生かして人気プログラムを実施するクラブ

▶▶▶ 岬町総合型スポーツクラブみさきタコクラブ

## 緊急企画 我がクラブのコロナ対策

▶▶▶ 友遊スポーツかみみね

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

## 特集

### PDCAサイクルにより運営の改善等を図るクラブ



#### NPO法人中山総合スポーツクラブ

＜山形県中山町＞



自立・自律したクラブへと至るためには、クラブ理念を踏まえ、将来的な到達点を明確にした目標を設定する必要があります。そして、その達成に向けた具体的な取り組み計画を策定した上で、計画に基づく活動を着実に実行し、その内容および効果を定期的に検証することによって常に改善を図っていくといったPDCAサイクルによって取り進めることが重要です。

そこで今回は、PDCAサイクルにより運営の改善等を図るクラブの取り組みを紹介します。

★「PDCA」とは、P(Plan「計画」)・D(Do「実行」)・C(Check「検証」)・A(Action「改善」)の頭文字から名付けられた効率的な業務遂行のサイクルを表した考え方のこと。

「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」(平成30年4月1日：公益財団法人日本スポーツ協会)

## 1 クラブ概要

### 運動施設面で恵まれている中山町

中山町は、県都山形市の北西部に位置し、明治時代後期まで最上川舟運で栄えた人口約1万1千人の町です。北には最上川が流れ、西は丘陵地帯、東は最上川支流の須川に囲まれた田園地帯です。

スポーツ環境は、町の総合体育館やテニスコート、屋内運動施設のほか、県野球場があります。最上川の河川敷公園には、県内随一のグラウンドゴルフ場やサッカー場、テニスコートなどがあり、運動施設がそろっていることから、中山町では「スポーツとフルーツ 伸びゆく町 なかやま」をキャッチフレーズにしています。

このように施設面では恵まれています、町のスポーツ行政は、年々町民向けのスポーツ事業が縮小・廃止され、気軽に参加できる運動教室もほとんど無い状態でした。このような行政に依存したスポーツ環境を、住民自らの手で解決しようと住民有志が総合型地域スポーツクラブ(以下「総合型クラブ」)の創設に動き出しました。



## 町民有志でクラブ創設

平成18年12月に4名の有志が集い、その後、町のスポーツ関係者を加えて「スポーツを考える会」を立上げて総合型クラブの必要性を共有し、平成19年には「クラブ設立準備会」に切り替え、平成21年2月まで18回の準備会を重ねて、平成21年2月28日に「中山総合スポーツクラブ」を設立することができました。

クラブ設立準備段階の2年間と設立後から5年間にわたり日本体育協会（現日本スポーツ協会）を通して日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成事業を受け、基盤を固めてきました。設立当初は、4時間パートの事務職員を配置していましたが、事業拡大に伴い3年目から常勤職員1名を配置してクラブ運営を行ってきました。

設立6年目にNPO法人化し、翌年から町の介護予防事業の委託を受け、9年目の平成30年度からは、町体育施設の管理業務を受託し、職員8名体制で3年目を迎えています。令和元年度における事業規模は、2千4百万円ほどのクラブとなっています。

## 重複事業を避けて各種教室を展開 会員は中高年齢者が中心

現在のクラブの活動内容ですが、町スポーツ協会やスポーツ少年団活動と重複する事業を避けて、複合種目を行うジュニアスポーツ教室やリズム感を育むキッズダンス教室、フィットネス系のヨガ、ピラティス、エアロビクスのほか、多世代で楽しめるエアバレー、ラージボール卓球、バドミントンなどを実施しています。さらに中高年齢者に人気の高い軽登山やトレッキングのイベントを定期的に開催しています。

文化事業としては、中高年齢の女性に人気の「つまみ細工教室」を月2回開催し、町の女性まつりイベントで体験会や発表会を行っています。

クラブ会員は近年200名程度で推移し、そのうち50名程が小・中学生で、中高年齢者が中心の構成となっています。



J2モンテディオ山形のオープニングセレモニーで  
踊るキッズダンス教室



キッズダンスチームによる山形花笠パレード

## 2 クラブの現状を知る

### クラブ自立に向け運営面を見直し、補助終了前から法人化を準備

クラブ設立後、スポーツ振興くじ助成事業 総合型地域スポーツクラブ自立支援事業補助金（以下；自立支援事業補助金）を受けて運営していたことから、補助金が受けられる5年間の5ヶ年計画を策定し、終了後に自立できるよう事業プランを組み立てていました。補助金を受けている期間は、事業を計画・実施し実績報告書を提出することが中心となり、PDCAサイクルも目の事業中心の評価・反省にとどまった感があります。

そのような中、補助を受けている総合型クラブでは、toto助成対象期間終了後の問題がささやかれ、補助金が切れて活動が停滞するクラブが出始めていました。当クラブも補助金が切れる段階で、自立できるクラブを目指して運営面の大幅な見直しを行いました。教室数を増やすとともに質の向上、さらに年会費や教室参加費の値上げなど、運営全般にわたり自己分析と自己診断を行いました。（自己分析と自己診断は、クラブ経営上の一つの指標となる）

設立当初から町行政の補助金無しで運営してきたことで、クラブ役員や会員、参加者の理解もあり、値上げ等に関して問題なく実施でき、その後のクラブ事業運営を軌道に乗せることができました。

NPO法人化については、設立当初からイメージしていたことであり、体育施設の指定管理者制度に参入する際や職員を複数雇用する中で、いずれ法人化は必要と考えていました。自立支援事業の補助終了前から法人化の準備を始め、設立6年目の平成26年10月に認証を受けることができました。

### クラブ理念の見直しを実施→方向性がより具体的に

NPO法人取得の準備を進める際、「目標に近づく道筋が見えない」との反省から、クラブ設立時に掲げた理念を今一度見直そうという声が上がりました。これは、クラブ設立当初の「スポーツ活動の多種目、多世代、他志向」という大きな目標から、その後、全国にクラブが創設されるにつれ、クラブの在り方もスポーツ振興のみならず、スポーツを通じた健康づくりや生きがいくくり、ひいては地域づくりや人づくりへと、大きく変化したことが要因かと思います。

このようなことから、クラブ理念の修正準備を始め、平成27・28年度にクラブの自己点検・評価を繰り返し、平成29年5月に理念（ミッション・ビジョン）の修正を行いました。（クラブ理念は、ホームページ <https://www.nakayamasc2011.com> を参照）

この修正により、当初理念に不足していた方向性をより具体的に明示して、10年後の目標と道筋を具体化しました。



### 3 新たに見えてきた課題

#### クラブ運営上の大きな変化→短期計画の必要性

当クラブでは、設立当初から5ヶ年の自立支援事業補助金を受けたこともあり、5ヶ年計画は自立に向けて大変重要なものでした。年次ごとの到達度合いを測る上でもPDCAサイクルは大変重要な作業であり、単なる事業の評価反省にとどまらず、クラブの方向性を確認する上でも大変重要と考えています。

クラブ創設から12年間の中で、大きな転換点となることが2回ありました。1回目はNPO法人化したこと。2回目は、町体育施設の管理業務を受託したことです。

1回目の転換点であるNPO法人化後に、町の健康福祉課から介護予防事業を受託し、これによりクラブ財源を安定させることができました。さらに町内の高齢者からクラブに対する信頼を得たことも非常に大きかったです。

2回目の転換点である町体育施設の管理業務受託については、クラブ職員を複数確保することができ、事務局体制に厚みが増えたこと、さらにスポーツ団体や関係者との連携が深まったことが大きかったです。ただし、町主導による指名競争入札方式での受託のため、クラブが想定した財源的なメリットには至りませんでした。

このことにより、クラブ運営上で大きな変化が生じ、事業規模が変わることで、クラブが歩むべき道筋にも変更が必要となり、5ヶ年計画の見直しに着手しました。

#### 変化に対応した5ヶ年計画のローリング

当クラブの5ヶ年計画には、第1次計画と第2次計画があります。第1次は、「平成21～26年度」まで、第2次計画は「平成28～32年度」まで、第3次計画は今年度に見直しを予定しています。（平成27年度は一時中断）

第1次計画は、自立支援事業補助金を受けている期間で、クラブのシステムを機能させ、クラブの自立に向けた草創期の計画でした。今顧みれば、補助金に振り回されていた時期でありました。

第2次計画は、NPO法人化に伴い介護予防事業の受託で予算規模が変わったこと、また体育施設の指定管理者受諾への移行に向けた準備と受託後のスケジュールを明確にしておく必要があるため策定しました。

第3次計画については、体育施設の管理業務を受託した平成30年度で見直すべきでありましたが、指定管理者制度への移行が行政側で揺れ動いているため、具体化が難しく先送りになって現在に至っています。さらに、今年に入りコロナ禍の影響で事業の中断や変更などにより、クラブ運営そのものが厳しくなっている中、現状を踏まえた計画の見直しが必要と考えています。

このように、社会情勢や住民意識の変化に対応した自己点検・評価が必須であり、タイムリーに計画を修正していく必要があると考えています。

## 4 クラブのこれから

### 100年続くクラブ目指し、欠かせない自己点検と評価（PDCA）

当クラブは、設立12年目になりますが、10ある階段の1段目を登ったに過ぎないと考えています。100年続くクラブを目指して、変化と挑戦を繰り返さなければなりません。そのためには、常にクラブの足跡と立ち位置を確認する必要がある、自己点検と評価（PDCA）は欠かせないものだと考えています。登山に例えれば、様々な登山ルートの中でベストなルートを選択し、登山中に現在位置を正確につかめるか、計画時間の進捗状況を的確に判断する必要があり、計画にズレが生じている場合は、日程やコースを変更することが必要になってきます。

当クラブの10年後の中期計画については、次の目標を掲げています。

- ① 5年以内に町体育施設の指定管理者を目指します
- ② 10年後に町民のクラブ加入率10%を目指します
- ③ 10年後にスポーツ少年団や学校運動部活動と連携したシステムをつくり、地域における一貫指導体制の構築を目指します
- ④ 10年以内に天然芝グラウンドを町民みんなの手でつくります

### 単独のクラブハウス所有が夢

また、クラブにとっての当面の大きな課題となる安定的な財源確保と町内スポーツ関係団体との連携・強化を図るための、町体育施設指定管理制度の早期導入と、公的施設では実現が難しいクラブサロンの開設も視野に入れています。

将来的には、クラブ単独のクラブハウスを所有することを夢に掲げ、当面、町総合体育館の指定管理者として、町民の運動・スポーツ、健康づくりの拠点化を目指します。

### クラブ理念と道筋を第2世代へ引き継ぐために

平成7年に文部科学省の補助事業でスタートした総合型クラブ。平成10年代に入り全国にクラブの輪が広がり、今では3千6百ほどのクラブが活動するようになりました。

クラブ創設に関わった第1世代も10～20年経過しようとしており、事業を引き継ぐ第2世代へクラブ理念とその道筋をしっかりと引き継ぐ必要があります。

そのためには確かな運営手法を引き継ぐことが大切で、PDCAサイクルは、最も大事な役割を果たすものと考えています。日本スポーツ協会で推奨している自己点検・評価「持続可能な総合型地域スポーツクラブの指針および評価指標」も大いに活用すべきと思います。

しかし、単にPDCAサイクルを繰り返したからと言って、クラブ運営がうまく回るわけではありません。そこには人・モノ・金のマネジメントが必要であり、クラブマネジャーの人材育成が最も大切なことだと考えています。当クラブでも、第2世代へ早く引き継ぐべきモノをしっかり準備していきたいと思います。

(NPO法人中山総合スポーツクラブ 理事長 今野 芳)

## クラブプロフィール

**設立年月日** 2009年2月28日(2014年10月14日NPO法人登記)

**所在地** 山形県東村山郡中山町

**運営** 会員数191名(令和2年3月現在)、予算規模2,458万円(令和元年度)

**特徴** 小さな町の総合型地域スポーツクラブとして、スポーツ振興だけでなく町民の健康づくりのための拠点としてのクラブを目指しています。そのためには、行政とのパートナーシップを確立するとともに、町内のスポーツ協会やスポーツ少年団本部、小・中学校など関係機関・団体と連携し、スポーツの多様性を共有する必要があります。町内有志によりスタートしたクラブですが、地域から信頼されるクラブを目指し、向かうべき方向を確認しながら、一步一步階段を登っています。

**連絡先** 〒990-0402 山形県東村山郡中山町いずみ2番地

TEL 023-664-2065 FAX 023-662-5900

URL <https://www.nakayamasc2011.com>

E-Mail [nakayamasc2065@shirt.ocn.ne.jp](mailto:nakayamasc2065@shirt.ocn.ne.jp)



柳沢地区の介護予防事業指導風景



町健康づくり委託事業の筋トレ教室



高齢者に人気の登山(山形県月山)



毎年恒例となりつつある町民交流エアバレー大会



## 特集

### PDCAサイクルにより運営の改善等を図るクラブ

#### うすねニュースポーツクラブ ＜群馬県沼田市＞

自立・自律したクラブへと至るためには、クラブの理念を踏まえ、将来的な到達点を明確にした目標を設定する必要があります。そして、その達成に向けた具体的な取り組み計画を策定した上で、計画に基づく活動を着実に実行し、その内容および効果を定期的に検証することによって常に改善を図っていくといったPDCAサイクルによって取り進めることが重要です。

そこで今回は、PDCAサイクルにより運営の改善等を図るクラブの取り組みを紹介します。

★「PDCA」とは、P(Plan「計画」)・D(Do「実行」)・C(Check「検証」)・A(Action「改善」)の頭文字から名付けられた効率的な業務遂行のサイクルを表した考え方のこと。

「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」(平成30年4月1日：公益財団法人日本スポーツ協会)

#### 1 クラブ概要

##### 1年の準備期間を経て、年間7教室でクラブを始動

1年間の準備期間を経て、平成15年12月3日に総合型地域スポーツクラブとして設立しました。設立するにあたり平成14年に、総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を組織し、スポーツ振興くじ創設支援事業に取り組みました。さらに基本計画を立て、「指導者会」を設置し、地域のスポーツ指導にあたるなど7項目の基本計画を策定して実行しました。この時すでに組織していた、チュックボールクラブ、ターゲットバードゴルフクラブの2つのクラブを母体に指導者会を組織し、基礎・基盤づくりが重要と考え、まずは、指導者の育成に努めました。会員を増やすためにダンベル体操やエアロビックスの無料体験教室を開催。参加者をとりまとめて、それぞれ新たにサークルを立ち上げ、うすねニュースポーツクラブの傘下団体として登録していただきました。この4つのサークルがクラブとしての体験教室を開催するとともに、当地区の体育指導委員(スポーツ推進委員)には「軽スポーツ」のキンボール教室を、スポーツ少年団指導者にはキックベースボール教室を担当していただきました。「健康教室」としては、地域の皆さんとスポーツ少年団員を対象に体力測定を実施。1年間で以上の7教室を開催し、282名の参加者の中から協力者を募り、総合型地域スポーツクラブとして設立しました。

群馬県教育委員会や沼田市教育委員会の指導をいただき、沼田市薄根公民館を活動の拠点とし、子どもたちの健全育成や高齢者の生き甲斐づくりなど、住民が誰でも楽しめるニュース

スポーツの普及・啓発を目的として、元気な地域社会の実現を目指し、活動しています。

## 現在は、8つのサークルと5つのスポーツ少年団で運営

### 【サークル】

「薄根チュック&軽スポーツクラブ」「薄根ターゲットバードゴルフクラブ」「ダンベル体操愛好会」「エアロビックぬまた」「パドルテニスクラブ」「沼田だんべえ踊り愛好会」「健康生活推進クラブ」「トランポビクス 花車・Gジャンピングクラブ」

### 【スポーツ少年団】

卓球、野球、サッカー、柔道、エアロビック

## クラブ内に「派遣指導者バンク」を創設

また、派遣指導者バンクを平成17年に組織。現在40名の指導員が登録し、クラブの活動を支えています。群馬県スポーツ協会には、健康指導者バンクがあり、私もそこに登録し学んでいました。「この組織のような仕組みをクラブ内にできたら、もっと、身近にスポーツを楽しむの人数が増えるに違いない。自分たちが足を運べば必ず運動したい人はたくさんいるのだからヒットする」と考えました。

平成17年、クラブに指導者バンクを組織して以降、指導者派遣の依頼があった際は、学校・行政・サークルなどに指導者を派遣しています。



ミズノウエルネス沼田と合同で「スポーツ祭り」を開催  
フローライフル、ラダー、ミニハードル、ダンベル、  
だんべえ踊り、ミニトランポリン。ダンスショーも大好評！！

## 2 クラブの現状を知る

### 現実を直視して「気づき」→PDCAを活用→充実した事業に

PDCAサイクルを活用することになったきっかけですが、現実を直視することが大切だと思ったからです。「教室を開催しても人が集まらない。良いと思って実施した事業も地域のニーズに合わなかった。それは何故?」。この「気づき」が大変重要です。計画を立て、実施し、評価し、修正を加えて、次回また新たに計画を立てて実行します。改善点が見つかれば修正し次回へとつなげます。「広報活動が不足?」「参加費を徴収したが金額設定はどうだったか?」「行政との協働事業はどうか?」などの改善点の発見とともに、年々進化していきます。

このようにクラブを運営する中で、PDCAサイクルがとても重要なことであると知り、その後は、事業計画とともに毎年PDCAサイクルを取り入れ、充実した事業(内容)ができるよう工夫しています。その工夫とは、繰り返し、続けることです。それにより指導者の資質や技術が向上し、結果、参加者の満足度は上がり、事業や教室の評価がアップ。そして充実した事業にもつながります。このようにPDCAサイクルは、クラブを運営する上でなくてはならないものです。

### 中学校へ「ダンスエアロビック」の指導者を派遣 自己評価シートを活用

指導者は、各サークルでの活動もしていますが、指導者バンクの指導者としての活動が中心となっており、その指導においてもPDCAサイクルを取り入れています。

一例として、毎年、地域の中学校から依頼があり、1年生から3年生までの体育の授業(武道とダンスの選択)のうち5日間、「ダンスエアロビック」へ指導者を派遣しています。エアロビックの基本的な動きの習得により体力の向上を目指すもので、チーム全員で創作し、演じることで思考力、判断力、表現力を育成するなど、知・徳・体の「生きる力」を育みます。このエアロビックの良さを学校に理解いただき、現在も授業を継続しています。

「PLAN」では、時系列の工程表を作成します。「DO」は、エアロビック指導者が複数で指導を実施。毎回、反省会を行い、生徒の感想を確認しています。反省会は、学年体育主任とサブ主任の先生方と私たちクラブ指導者3名で行い、動きの出来栄や、理解度を確認をし、次回の指導へ反映していきます。毎回生徒たちは、A4用紙の自己評価シート(4段階)にチェックするとともに、今の気持ち・感想を記載し次回へとつなげます。

#### 【生徒の感想】

「最初は、つまらなかったけれど、だんだん汗が出てきて気持ち良かった」

「ステップも上手にできるようになったら、楽しかった」

「フリーパートを仲間と相談できて、最後は仕上がって踊れて良かった」 等



「チーム・ダンスエアロビック」

中学校の授業に協力。学校体育が充実し、生徒の体力向上とともに楽しく活動しています。最終日の発表会は保護者も見学。

### 3 PDCAサイクルの活用で得た着眼点と成果

#### 自己評価シート＝生徒の理解度と動きの向上に不可欠

「CHECK」生徒の感想を確認し、理解度と心の動きをチェックします。苦手な部分の反復練習により、動きの連携がうまくいくようになります。生徒の自己評価シートには「エアロビックがだんだん楽しくなりました。もっと、頑張ります」とのコメントもあり、生徒たちの心が動き出します。

「ACTION」仲間同士の距離間や配列など改善点を伝え、さらにバランスの良い一体感のあるダイナミックな動きに仕上がります。

自己評価シートには、教室の終了5分前に毎回記載します。自己評価のため、自分が良くできて満足なら高い評価になり、先生みたいにうまく動きたいという生徒は低い評価になります。学校の先生方たちはそんなところも見逃しません。さらに、今の気持ちや感想をシートに記入します。

自己評価シートは、クラブ側で作成し、学校で印刷して配布していただいています。このシートによる評価を踏まえて、より良い成果が上げられるよう努めています。やはりPDCAサイクルは、指導の中でも重要な視点となっています。

このように、自己点検・評価が必須であり、社会情勢や住民意識の変化に対応し、タイムリーに計画を修正していく必要があると考えています。



## 4 クラブのこれから

### コロナ禍で学んだ動画指導の重要性 今後はHP作成と情報発信で活動拡大

これまで、地域の教室で指導を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、2月の後半から7月まで、クラブの事業は全て中止としました。その間、これまで教室に参加されていた皆さんからは、動画を流してほしいとの相談をいただきましたが、準備ができず、対応できませんでした。

教室を休止したことで、地域の皆さんの体力はかなり落ちています。ウェブによる動画での指導を含め、クラブとして情報提供できるような環境整備が急務でもあると痛感しています。

クラブの活動を理解いただき、活動の場を広げるためにも、クラブのホームページを作成し、情報を発信することが重要になります。さらに、動画による指導等にも力を入れるため、スポーツ活動継続サポート事業※ に取り組むこととしました。

今回の、新型コロナウイルス感染症を機に、新たな活動にチャレンジするとともに、活動の場を広げ、また、情報も積極的に発信していきたいと考えています。

※スポーツ庁 令和2年度第2次補正予算事業

スポーツ活動サポート事業 URL: <https://www.japan-sports.or.jp/tabid1281.html>

### クラブの維持・発展のために、新たなクラブの在り方を模索

クラブの会員数は、総合型クラブ設立当初からあまり増減はありませんが、クラブの活動を通じ、スポーツに関わる方は確実に増えてきています。

クラブ設立から、すでに15年以上が経過し、会員は運動を継続しているため、元気に活動していますが、クラブを維持し、発展していくためには、運営するスタッフの力が必要です。新たな事業に取り組むことや、地域にある団体との交流・共存を大切にして進むことも必要です。また、新しい組織をつくり地域貢献するのもよいでしょう。これからのクラブの在り方を考えていく必要があると感じています。

(うすねニュースポーツクラブ 会長兼クラブマネジャー 小野里 順子)

## クラブ プロフィール

**設立年月日** 2003年12月3日

**所在地** 群馬県沼田市下沼田町733-1

**運営** 会員数181名(令和2年7月現在)、予算規模 486,000円(令和2年度)

**特徴**

- 行政や他団体との連携協力による地域づくり
- 派遣指導者バンクの活動範囲の拡大による人材育成
- ・委託事業 沼田市健康福祉部健康課 「New福ろうクラブ」筋トレ教室 等
- ・派遣事業 ミズノウエルネス沼田 「スローエアロビック」等

※その他、近隣市町村及び総合型地域スポーツクラブとの委託契約により運動教室を開催

**連絡先** 〒378-0063 群馬県沼田市下沼田町733-1 沼田市薄根公民館内

TEL 0278-22-3160 携帯 090-2322-0082(小野里)

E-Mail [onozatoj@mail.wind.ne.jp](mailto:onozatoj@mail.wind.ne.jp) (小野里)



「生涯エアロビックフェスティバル」in沼田  
子ども大人も楽しくみんなでパブリカを踊りました。  
放課後子ども教室「うすねわくわくスクール」発表風景



薄根地区振興協議会主催「スポーツ教室」  
主管:うすねニュースポーツクラブ  
実業団選手を招いて、卓球教室を開催  
「基本技術から実践で学ぶ」集合写真

## 特集

### 公共施設を活用しているクラブ

## NPO法人習志野イースタンススポーツクラブ

### <千葉県習志野市>

総合型クラブが日常的な活動拠点として地域における身近な施設である学校施設・公共スポーツ施設・公民館等の社会教育施設を確保することは、クラブの安定的な活動・運営につながります。

そこで、学校施設・公共施設を活用し、地方公共団体や学校教育機関と連携するクラブを紹介します。

## 1 クラブ概要

### 住民へのアンケートを基に計17種目の定期活動を実施

平成13年12月に習志野市教育委員会よりクラブ指定を受け、市民スポーツ指導員24名による設立委員会を立ち上げました。そして、地元住民へのアンケート調査の実施、まちづくり会議はじめ各種会議への趣旨説明の実施、広報習志野への掲載等を経て平成15年5月に設立しました。同アンケートは、スポーツ活動の実施状況、希望するスポーツ種目等の調査で、アンケート用紙は小中学校あわせて4校の児童、生徒へ配布し、回収を行うことで住民のニーズを把握することができました。ちなみに回収件数は2810件で、回収率としては地域人口の10.7%でした。

現在、スポーツ活動15種目、文化活動2種目の定期活動と年1回のスポーツフェスティバル、市内の中学生を対象としたソフトテニス大会を主催するなど、「だれでも、いつでも、いつまでも」をスローガンに活動しています。

事務局は、習志野市東部体育館内の事務室を使用し、水、金、土曜日に当番を割り当て、会員および外部との連絡調整にあたっています。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会員の更新者が激減しています。



クラブ主催のスポーツフェスティバルの開会式のセレモニーの中で、毎年東習志野小学校の吹奏楽部の素晴らしい演奏で、幕を開ける。



スポーツフェスティバルにて、初めてポッチャを体験種目の一つとして取り入れた。多くの人が夢中になって楽しんだ。

## 2 市と学校の理解で近隣小学校の施設活用が可能に

当クラブは、習志野市東部体育館をスポーツ活動の拠点として活用することを前提に設立しました。しかし、東部体育館だけでは、他の利用者との施設利用調整で難しい側面もあり、どうしても活動機会が少なくなってしまう実態にありました。

そこで、近隣小学校の学校体育施設開放委員会と交渉し、土、日曜日の校庭や体育館の使用許可をいただきました。また、東部体育館に隣接する第四中学校の体育館および卓球場の使用についても許可をいただくことができました。

クラブハウス設置については、市に設置を要望したところ、第四中学校の敷地の一部を借用できることとなり、クラブハウスを建設していただきました。

これらが可能となったのは、市や学校が総合型地域スポーツクラブの活動に深く理解を示していただいていることが挙げられます。総合型地域スポーツクラブの運営については、習志野市教育委員会とクラブとの共同事業となっており、毎年度「行事共催協定書」を締結し、この契約に基づいて活動している点も、「理解」への背景となっています。

### 3 公共施設活用の経緯でポイントとなった事項

- ① 地域住民のスポーツに関するアンケート調査を行ない、実態を把握し、活動種目を決定しました。(地域住民の10.7%から回答)
- ② 平成11年12月に習志野市スポーツ振興審議会より建議のあった「市の中学校区毎に総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業を導入」との趣旨に基づき、市の育成モデル事業として導入されたため、公共施設については、アンケート内容による希望種目を中心に、ほぼ要望どおりに会場を確保していただき、利用することができました。
- ③ 地域の小中学校の教頭に理事就任を依頼し、学校との連絡・調整を円滑にしました。
- ④ ローテーション制による事務局運営については、事務局開設日の毎週水、金、土曜日の14時から16時の間を、現在7名のスタッフが担当しています。スポーツ活動に携わりながらの事務局業務はかなりの負担と考えられますが、クラブの進む方向、対外的折衝の内容、日常の活動状況をつぶさに把握することができるメリットは大きいと思います。なお、交通費相当額として、わずかですが手当を支給しています。
- ⑤ 平成19年12月、東部体育館に隣接する第四中学校の敷地内にクラブハウスを建設してもらい、現在は「絵てがみ」「布あそび」などの文化活動を行う他、各種会議、会員のミーティングにも活用しています。



クラブハウスの文化活動一つ、布あそびの作品。  
会員が教え合い楽しいひと時を過ごしながらか、作った作品の数々。



## 4

## 若手会員増と世代交代が不可欠 広報活動にも重点を

現在も定期活動拠点の確保については、市の施設を優先的に利用できています。しかし、施設の改修および災害等による被害があった場合は、活動日が減少することがあります。

2011年の東日本大震災時には、活動している施設の改修工事により活動が減少し、退会者が増えましたが、近接する小中学校の空きスペースの借用や、近隣市のスポーツクラブの活動へ合流するなどして何とか乗り切りました。

会員の高齢化とともに、理事や各種目の代表者も高齢化し、しかも長期にわたりその任を務めてきています。クラブの活性化と発展のためには、世代交代が不可欠ですが、後任のなり手がいないのが現状です。

今後、1～2年の間に人材の育成および発掘に努め、組織固めをしていかなければなりません。その一つとして、若い世代に関心を持ってもらい会員を増やすことで、新たな人材の確保、クラブの活性化と発展にもつながると考えます。

そのためにも、活動種目の見直し、新しい種目の導入や活動の在り方等の見直し・改善をしていかなければなりません。また、広報活動にも重点を置き、地域に総合型スポーツクラブの存在をより広めることも積極的に進めてまいります。

(NPO法人習志野イースタンスポーツクラブ 理事長 田村 義彦)



NES創立15周年記念「ジュニア第7回ソフトテニス交流会マッチ」市内中学1年生を対象に試合経験を増やす目的としている大会であり、熱戦が繰り広げられた。

## クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成15年5月24日(平成18年2月8日NPO法人登記)

**所在地** 千葉県習志野市東習志野3-4-5

**運 営** 会員数266名(令和2年3月現在)、予算規模246万円(令和元年度)

**特 徴**

- クラブ活動の拠点として、市の体育館・テニスコートや隣接する学校等があり、施設には恵まれています。また体育館にはクライミング施設があり、その活動もできます。
- クラブハウスがあり、文化活動もできる環境にあります。
- 競技主体として活動するより、「だれでも、いつでも、いつまでも」を目標としています。

**連絡先**

〒275-0001 習志野市東習志野3-4-5  
TEL 047-474-3215 FAX 047-474-3215  
URL <https://nes2003.sakura.ne.jp>  
E-Mail [nes2003@jcom.zaq.ne.jp](mailto:nes2003@jcom.zaq.ne.jp)

## 特別企画

### 地域の特性を生かして人気プログラムを実施するクラブ

## 岬町総合型スポーツクラブみさきタコクラブ ＜大阪府岬町＞

総合型クラブが地域に根差し、愛されるクラブとなり自立・自律するに至るためには、地域に定着・浸透することが必要となります。

そこで今回は、地域の特性を生かしたプログラムを実施するクラブを紹介します。

### 1 クラブ概要

#### 行政からの財政的支援受けず、年会費のみで運営

町教育委員会生涯学習課主導の下、平成17年に、岬町の体育協会、スポーツ少年団、子ども会育成連絡協議会、体育指導委員協議会（現スポーツ推進委員協議会）の担当者が集まり、設立準備委員会を結成し、2年間の研修や既に設立されている府内のクラブ視察、社会人チームを招いて練習指導を受けるなどの準備期間を経て、平成19年2月25日「岬町総合型地域スポーツクラブみさきタコクラブ」が設立されました。

設立が決まった時点で準備委員会を解散して、改めて組織を編成しました。体育協会、スポーツ少年団、子ども会から会長・副会長を選出し、各団体が事業に協力。教室の指導は体育協会、スポーツ少年団にお願いし、両団体では実施していない種目の教室は外部委託することにした。

#### クラブ名は、名産の「泉蛸(たこ)」が由来

設立に先立ち、クラブ名は「岬町総合型地域スポーツクラブ」と決まりましたが、「堅苦しすぎるから愛称をつけよう」と全町民に愛称を募集したところ、「泉蛸と言う美味しい蛸の産地だから、タコクラブ」の応募があり、これを採用し正式にクラブ名が決定しました。

## 海・川・山など自然環境に恵まれた岬町

岬町の自慢は、海があり、川があり、山があり、他にも公園、夕日、魚釣りなど自然と環境に大変恵まれている町です。このような自然と環境を大切にして、自然を大いに利用したスポーツ・文化活動を通じて、地域で出会うことに喜びを感じ、触れ合うことを大切に、楽しさを分かち合うための活動を進めています。

小中学校の体育施設、町民体育館などを活用し、親子・家族・グループ・誰でも気軽に「する」「みる」「ささえる」スポーツの普及・文化活動の環境づくりと、地域住民の健康増進、世代を超えた交流を促進し、さらに次世代を担う子どもたちの健全育成を図ることを目指し活動をしています。

## 年会費のみで全教室に参加可能

「総合型地域スポーツクラブはスポーツの寄せ鍋」の考えで、個人会員に入会すると、年会費だけで全ての教室を楽しむことができます。また、自主運営を目指し、行政からの財政的な助成は活用せずに、会員の年会費だけで運営。そのためスタッフは全て無給のボランティアで運営しています。

設立当初より町スポーツ振興の中心である、町立体育館の一部を事務所拠点とし、事務所一室と倉庫一室を町より貸与を受け、クラブの活動だけではなく、町教育委員会生涯学習課や町の行事にも協力を行っています。

令和元年度時点で、小学生から高齢者まで個人会員98名、サークル会員(団体会員)9団体が登録、定期教室7種目9教室、体験教室6種目8教室、年数回のイベント(全町民対象のグラウンドゴルフ大会等)開催などの活動をしています。入会前の体験は、定期、体験いずれの教室も無料で参加できます。

## 2 実施プログラムの内容

### ■ 海洋マリン教室 ■

#### 小中生対象の「マリンプログラム」を中心に12年継続

岬町には、『マリンスポーツを主体に海の大切さや楽しさを知り、仲間づくりができる』大阪府立青少年海洋センターがあります。海洋センターの施設および指導スタッフの力を借りて、タコクラブの教室が開催することができないかと、海洋センターと協議を始めました。

参加者の募集はクラブが実施、プログラムの内容は両者が協議して決定、指導は海洋センター、安全監視はクラブが担当することで合意し、平成20年から年間6回の実施と決まりました。安全監視面ですが、伴走艇に同乗するほか、陸から子どもたちの様子を監視し、異常を見つけた際にはすぐに対処できる体制を取っています。

参加者募集は町内全小中学校の児童生徒に募集チラシを配布、各家庭にも同じ内容のチラシを月1回発行の町広報誌に挟んでもらい周知。また、クラブと海洋センターのホームページに掲載して参加を呼びかけています。

平成20年4月27日、記念すべき第1回教室を開催。参加者は7名と少人数でしたが、回を重ねる毎に増え、この年は17名参加の回もありました。以来12年続いています。12年間の平均教室登録人数が約36名／年（最高47名）で、平均参加人数は約17名／回。参加者は大阪府の各地域からだけでなく、和歌山市からの参加者もおります。

海洋センターで実施している多くのプログラムのうち、低学年でも安全に楽しめる「マリンプログラム」は、カッターボート、OPヨット（オプティミストディンギー）、カヌー、自分たちで作るいかだ、クルーザーによるクルージングの5種類です。また、昼ご飯を自分たちで作る野外料理やグラウンドゴルフなどのゲームを楽しむ「フィールドプログラム」があります。さらに、塩づくり体験などの「インドアプログラム」を組み合わせ、参加の子どもが飽きないよう、また保護者の負担が少しでも軽くなるよう工夫してプログラムを作っています。



海洋マリン教室OPヨット  
風を受けス～イスイ



海洋マリン教室カヌー  
きれいにつながりました



## ■ファミリー魚釣り大会■

### 参加者に大好評の会員交流イベント 約束事定め定例行事に発展

会員交流イベントの一つとして、釣り好きのスタッフが中心となり企画、平成30年に開催しました。実施すると大好評のため以後は定例行事になりました。実施にあたり以下の5項目の約束事を決め、海洋センター、ヨットハーバー、大阪府磯釣り連盟にお願いすると快く引き受けていただき開催することができました。

- 青少年海洋センターおよび隣接の淡輪ヨットハーバーの栈橋を釣り会場として借りる。
- 栈橋に出るためのライフジャケットは海洋センターで借りる。
- 釣り経験の無い人でも参加できるよう、大阪府磯釣り連盟から釣竿、リールを借りる。
- 釣り針、おもり、餌、氷など必要なものはクラブで購入する。
- 参加者の持ち物は、釣った魚を持ち帰る入れ物(クーラーボックス等)だけ。

### 3団体の協力で経費・運営両面でメリット

3団体に協力依頼したことで、経費面の抑制というメリットが生まれました。また、磯釣り連盟からは会員さんがスタッフとして参加し、釣りの指導をしていただきました。海洋センターには釣りの場所だけでなく駐車場も提供してもらい、ヨットハーバーには停泊のヨットを移動して釣り場所を広げていただくなど、運営面でも大変助かっています。

参加資格は、クラブの会員とその家族ですが、「孫が、神戸より遊びに来るので一緒に参加」とか、家族の定義が広く(曖昧?)、多くの方に楽しんでもらうことができました。また「大漁で賞」「大きいで賞」「珍しいで賞」などを設け、ゲーム感覚も加味し大好評でした。

大会では小鰻、小鯖、鰯がよく釣れます。しかし、ヒレに毒のある危険な魚が釣れることもあるため、写真やイラストを使い、色やかたち、毒のある部分などを勉強し、釣り上げたときは触らずにスタッフを呼ぶなどの説明を受けた後、釣り場所の指定を受け魚釣りの開始です。

## 【プログラム実施後の所感】

### 『海洋マリン教室』

海のプログラムでは、初めて参加の子どもは慎重に行動しますが、3年・4年続けて参加の子どもは慣れてきて、それぞれの楽しみ方を見つけているようです。また、慣れない子を手伝う等、指示しなくてもリーダーシップを取れるようになってくれます。クルージングで野生のイルカと出会ったときの子どもたちの歓声と興奮を見たときは、「この教室をやってよかった」と感激しました。

## 『ファミリー釣り大会』

釣り大会を観察すると、以下のように色々な様子を見ることができました。

- 魚を釣り上げるときには歓声を上げているが、釣り上げた魚をつかめずに困り顔の子ども
- 直ぐにサポートに入るスタッフ
- 2～3度繰り返すと慣れて自分で対処できる子と、何度もスタッフを呼ぶ子
- マイ竿を持って来ている子は、さすがに落ち着いて釣っている

心配していた、釣り針で手を刺したり、毒魚に触れる子も無く、短い時間ですがクーラーボックスに入りきらないくらいの魚を、笑顔で持って帰る家族を見ていると、「交流イベントは成功だった」と実感しました。このイベントは年1回のクラブ内各教室の交流会です。子どもたちは既に顔なじみになっていますが、家族や保護者はここで初めて顔を合わす人が大多数です。このような機会も必要だと感じました。

## 【プログラムの課題・問題点】

### 『海洋マリン教室』

マリンプログラムは、毎年同じ5種類のプログラムを繰り返し実施しています。半数以上の子どもは複数年、継続参加しているため、「またか」という顔をすることもあります。

その改善策として

- ① ヨットのプログラムでは、複数年参加の子で操艇レベルが向上している子には、OPヨットではなくディンギーに挑戦させることで、参加年数の少ない子どもの向上心を刺激する。
- ② 今年はカヌーの年、来年はヨットの年と年度ごとに目標を設定し、1年6回の内、数回は同じプログラムを続け操艇レベルの向上を目指す。

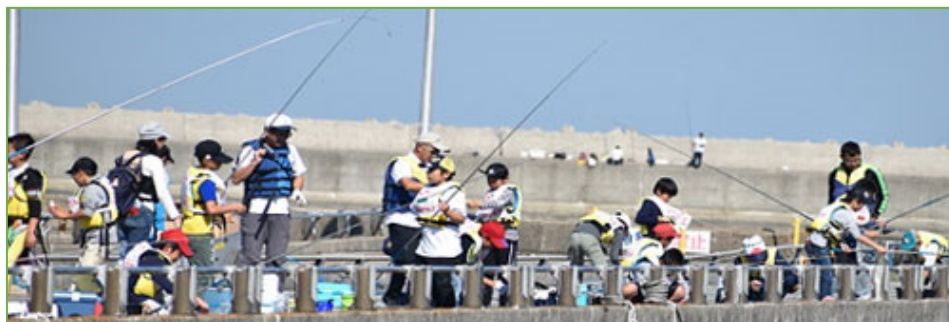
いずれも海洋センターのスタッフと相談し、最善の方法を決定していきたいと考えております。

### 『ファミリー釣り大会』

会員交流イベントとして開催しているため、募集チラシの配布が遅くなり、住民を巻き込んでのイベントになりにくい点が課題です。募集チラシの発行を早くして、住民参加のイベントになるよう改善したいです。

釣りのためのスペースに限りがあるため、募集人数に制限を設ける必要があります。特に今年は新型コロナウイルスへの対策から間隔を広くしなければならず、さらに募集人数を減らす必要があります。

借りた釣り竿やリールの洗浄に、予想以上の時間がかかります。それを解消するためには、洗浄作業の割り当てがスムーズに回るようスタッフの増員が必要と感じました。



ファミリー釣り大会  
さあ～釣るぞー

### 3 スタッフの高齢化で後継者育成が課題

設立以来14年。スタッフは設立時より無償のボランティアで活動が続けていますが、高齢化も進んでいます。スタッフ、指導員の後継者を見つけることがクラブの大きな課題となっています。

また、少子高齢化社会の中で人口の減少に歯止めがかからない岬町です。体育協会やスポーツ少年団（小学生の40％が加入）でのスポーツ活動が盛んな町での、会員の確保にも苦労をしています。

#### 低学年対象の教室に新たなニーズ 新展開でスタッフ確保目指す

こうした中で、小学校低学年を対象に平成30年にスタートし、遊びの中で運動習慣を身につけることを目標にした「キッズスポーツ教室」が大人気です。このことで低学年（低年齢）の子どもを対象にした、新しいニーズがまだまだあることに気付きました。「幼児のスポーツ教室」「子どもと母親の運動教室」などを展開できるだけのスタッフと指導者を集めることができれば、前記の問題への解決の糸口になると思っています。

（岬町総合型地域スポーツクラブみさきタコクラブ 会長 中西 正）

## クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成19年2月25日

**所在地** 大阪府泉南郡岬町

**特 徴**

- ・子どもから高齢者まで多世代の住民・家族が気軽に参加し、スポーツを楽しみながら生涯の健康づくりに役立てる場所を提供しています。
- ・地域の施設や企業の協力を得て、色々なスポーツを提供しています。例えば、ジュニアゴルフ教室ではゴルフ場および練習場の協力で、練習場でプロのレッスンを受けてからから、コースでのラウンドを実施しています。
- ・会費は年会費のみで全ての教室が楽しめます。これにより、教室の参加人数で収入が増減しないため、安定したクラブの予算計画が立てられます。

**連絡先**

〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪4546

TEL 072-494-2189 (FAX同)

URL [takoclub.web.fc2.com](http://takoclub.web.fc2.com)

E-Mail [t-nkns@zeus.eonet.ne.jp](mailto:t-nkns@zeus.eonet.ne.jp)



10周年記念交流会  
全員集合

 **緊急企画****我がクラブのコロナ対応** **友遊スポーツかみみね**   
**<佐賀県上峰町>**

世界中で甚大な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症による影響は計り知れません。クラブが受ける影響も大きく、各クラブで試行錯誤している状況にあります。少しでも全国のクラブの力となるよう、新型コロナウイルス感染症対策の取り組みについてご紹介いたします。

 **1 現在のクラブ状況****緊急事態宣言解除後も会員の活動状況は低水準のまま**

友遊スポーツかみみねは、設立10年目を迎え、節目の年を目前にした3月1日から5月19日の活動再開までの間、新型コロナウイルス感染拡大を受け、事業活動を全て停止することになりました。人口9,600人ほどの小さな地方の町で「ヨガ」や「ズンバ」など15種目が楽しめて、毎日町のどこかに行けば飛び込みで「スポーツ」ができる環境を目指し、運営に励んでいた日常が“自粛”に変わった期間でした。

5月の緊急事態宣言解除を受け、佐賀県は知事による緊急会見や素早い対策・対応の提示等があり、町内施設の利用再開に伴う「クラブの事業再開」にあたり、大変助かるガイドラインとなりました。しかしながら、6月になると町内外の利用者が施設使用を許可され、事業が正常に動き出すかと思われましたが、8月現在で会員の活動はいまだ60%に満たない状況です。

当クラブは年間4か月毎3期に区切り事業を展開しており、中途半端な1期のうち2か月間は参加費免除の対策を取ったものの、会員の参加状況は50%にとどまりました。2期目の8月からはイベント等の開催は見合わせていますが、通常事業は運営しています。どれだけの会員の皆さんが参加いただけるか、見通しが立たないのが現状です。

特に、幼児から小学4年生までのACPの教室では、例年の1/3の加入数に減少したため、子どもたちの集中力、体力の低下が大変気がかりです。



### 迅速・柔軟な県のガイドラインに助けられ、前に進めたクラブ運営

佐賀県は5月5日、新型コロナウイルス感染防止対策に十分に配慮した上で、社会活動の再開についての方針を発表し、緊急事態宣言を受け5月14日に佐賀県としてのガイドラインを配信、さらに5月25日には「SAGA2020 佐賀県高等学校スポーツ大会」の開催を早々に決定しました。

感染者が少ない地方性というのもあるのですが、方針がぶれることなく県内の感染状況や環境面にも配慮して早急かつ柔軟な対応を進めた県の姿勢は、不安要素が多かった私たちにとって心強いメッセージでもありました。県から発信された感染防止対策への取り組みはスピーディーで分かりやすく、全てが再開に向けてのガイドラインになりました。こうした県の対応のおかげで、クラブ運営にあたり“安心、安全”を探りながら前に進む手段を選択できたと思います。

### 協力依頼したインストラクターは危機管理スキルを保持

教室での指導は外部のインストラクターに依頼しています。今回、感染防止対策を講じての事業再開を受け入れてくれるか不安でした。再開するにあたり、インストラクターに連絡を取ったところ、インストラクターの大半の方は安全をまず考慮し、会場環境、参加人数の削減、プログラム内容の変更等を提案してくれました。

活動再開に伴った対策を取るにあたり、インストラクターや講師の先生方は危機管理意識が高く、方向性を伝え協力依頼するのが容易だったのは幸いでした。日々活動する中で、問題点への取り組みは、今なおインストラクターの方々と一緒に進めています。

ただ、本来は運営側が構築しておかなくてはならない「講師の選定基準」「講師の研修」については、早急に取り組む必要がある課題だと実感しています。

### 感染防止策を目に見える形で、会員に分かりやすく提示

一方、心配だったのは会場でお世話をさせていただくスタッフの皆さんに危機管理面を含めた重要性が伝わるか否かでした。佐賀弁で「ヨカ、ヨカ」と寛容で曖昧な意味の表現が飛び交いますが、この「ヨカ」が「どうでもいい」といった誤った判断になりかねないのが心配でした。このため、丁寧に文書や絵を活用し、実演指導も含め打ち合わせをするなどして対応しました。同様に会員にも、チラシ、プリント等で感染防止への意識付けができるよう二重三重に準備をしました。会員さんには、できるだけ文書でしっかりと、イラストではっきりと、活動再開の方針や新型コロナウイルス感染防止対策を具体的に分かりやすく示せるよう工夫しました。施設で目にする募集チラシ、手渡しのプリント、受付時の案内、提出する申込書等で会員が意識を共有できるようにと思案し、実行しました。

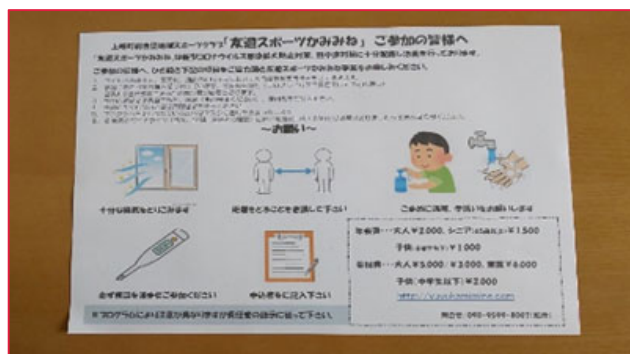
現在整備中(タイミング悪く)のHP、SNSの活用も急ぎ、活動発信につなげたいと考えております。

## スタッフによる各種防止手作業は謝金対象に

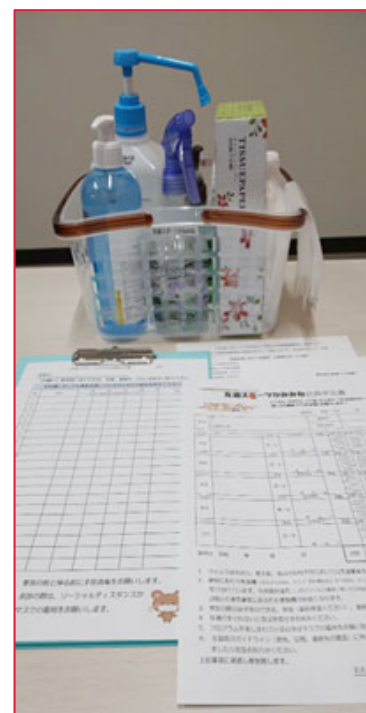
3月初めに新年度事業開始に向けアルコール消毒液、次亜塩素酸水、ハンドソープをある程度の量を購入していましたので、全ての事業で配布・配置ができました。ただ、その時点で体温計は購入が困難でしたので、事業再開時には自身での事前検温をお願いしました。開始前の煩雑な準備や手配、施設使用後の用具や施設の消毒作業に関しては、スタッフの謝金対象とすることで継続できています。

感染防止対策はもとより、猛暑の夏への対応として毎年熱中症対策講習会を実施しているため、会場スタッフの蓄えた知識を信じ、感染防止と熱中症対策の双方に備えています。

今回のコロナ禍対応で得た教訓ですが、クラブ内での迅速な情報共有に関し、もっと工夫が必要だと実感いたしました。



会場では目に届くよう設置し、全会員に配布



各会場担当者が持参している一式

### 予防対策への取り組みが他クラブに紹介され、高まったモチベーション

#### 【対策実施後の反響】

参加いただく会員の皆様には、既にメディア等を通して感染を予防する手段としての情報が行き届いているため、クラブ内での対策の手間暇に異論は無く、自然と浸透しました。

活動再開当時、すぐに県クラブアドバイザーさんが訪問してこられました。当クラブでの感染予防対策を迅速に県内の各クラブに配信していただき、その後行われた会議等でも紹介されました。

活動再開に向け準備中の、あるいは再開を躊躇(ちゅうちょ)されているクラブからすぐに問合せをいただき、ますます“安全、安心”を提案することに意識が高まるという相乗効果が生まれました。

自分たちだけでは、大した効果も結果も求められませんが、連携・協働することで大きな力が生み出せると改めて思い知ることの多い日々です。当クラブの感染防止対策の取り組みを県内の他クラブにも紹介させていただき、「参考になった。そのまま活用した」との声が寄せられるなど、感染防止対策取り組みへのモチベーションは高まるばかりです。

課題は、感染に対し恐怖を感じ、いまだ自粛を選択されている半数近い会員の皆様にどうアプローチをしていくかです。対策を講じ、どのような形でクラブが地域の皆様に健康と元気を提案できるか、テーマは尽きません。

### 大きな支えとなった県クラブアドバイザーの存在

#### 【対策実施後の事務局側の声】

国内、県内での感染状況を踏まえ、もっと慎重であるべきとの意見は消えません。慎重論をいただくからこそ、クラブ運営に関わる側としては、万全な対策に気が抜けず、できる限りの努力を続けていきたいと考えます。

自粛の中、気にかけて頻繁に連絡くださった県クラブアドバイザーの存在は大きく、メールの中には当時の悶々(もんもん)とした思いや言葉がつづられており、クラブにとって確かな大きな支えでした。

### 今後の感染防止対策で4つのクラブモットー

- 感染防止対策を十分に配慮した上で、年間事業に対しては“当たり前”に実施する環境を整える。
- 不安なまま“自粛”を続ける多くの住民の皆様に対し、安心して参加できるオンラインでの配信や新たなプログラム提供にチャレンジできるよう人材をそろえる。
- 危機管理にあたっては柔軟さと見極める判断力を備える。
- 何より“スポーツの持つ力”を提案できるクラブであり続けるよう、スタッフ一同が健康で元気であること。

### 再会時の子どものような無邪気な姿忘れず、課題に取り組む

今なお続く新型コロナ禍の状況は、「健康について」「スポーツについて」「クラブ事業の運営について」立ち止まり、再認識する機会を与えてくれました。活動再開の日、体育館に集まった会員の皆さんのはじけた笑顔と喜びの足取り、まるで子どものような無邪気な様子が忘れられません。

先日、地元中学校の体育大会を見学する機会がありました。多くの制約の中、「達成」というにはほど遠い不十分な練習準備期間、決して納得はしていないであろう会場で、「今」に励み楽しむ子どもたちの姿があり、サポートに尽力する学校の姿勢があり、応援を制限された保護者が心遣いを持って見守る姿がありました。ここに「スポーツの持つ力」の原点を見せられたようで、心が揺さぶられました。地方の小さなスポーツ環境ですが、これからも地域の皆様とともに成長したいと思っております。

課題は山積みですが、そう遠くない、「スポーツ」に携わる多様で多世代の皆様と何の制約もなくお会いできる日を目指し、今できる日常に取り組んでまいります。

(友遊スポーツかみみね クラブマネジャー 松井 結華)



換気を取り、冷房をきかせフェイスシールドを装着しての参加の様子



講師の先生はマスク着用。ソーシャルディスタンスを取りながら「KODOMOダンス教室」の様子

## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成23年2月1日

**所在地** 佐賀県上峰町坊所319-4

**特徴** 人口9,600人ほどの小さな町。10年前に町民の健康をテーマとした6種目でクラブを設立しました。現在、町の大きな理解と支援を受け15種目、年間500回を超える教室事業を実施しています。障がい者スポーツや部活動の受け皿、住民の運動習慣向上の提案と課題は尽きません。

**連絡先** 〒849-013 佐賀県三養基郡上峰町坊所3093-4

TEL 090-9599-8007 FAX 0952-53-6061

URL <http://yuyukamimine.com>

E-Mail [matchmama2-8@outlook.com](mailto:matchmama2-8@outlook.com)





## 助成金情報

### YMFSスポーツチャレンジ体験助成

#### 〔実施団体〕（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団

アスリート、指導者、審判、スポーツジャーナリストなど、スポーツに関連する幅広い分野から、我が国のスポーツの普及・振興や競技水準向上につながる、高い志、明確な目的・目標、そして具体的なプロセスを持ったチャレンジスピリット、フロンティアスピリットにあふれる人に対して助成を行うことにより、世界にはばたく逞しい人材を育成することを目的としています。

※講習会やイベント開催などの普及活動、施設・団体などの運営活動、スポーツ少年団等の指導などは、助成対象外とします。

#### 〔申込期間〕 2020年10月30日(金) 日本時間の正午にて入力締切

申請フォームにて、「電子申請」を行います。

<https://www.ymfs.jp/project/assist/15th/experience/2/>





# お知らせ

## 日本スポーツ協会情報

### 令和2年度生涯スポーツ功労者が決定しました！

国による生涯スポーツ功労者表彰は、地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツ振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者を表彰するものです。今年度は生涯スポーツ功労者164名、生涯スポーツ優良団体128団体が決定され、日本スポーツ協会からは総合型地域スポーツクラブ育成指導者として8名を文部科学省へ推薦し、「生涯スポーツ功労者」として決定されました。

生涯スポーツ功労者一覧については下記URLを参照ください。

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4211>

### コーチングアシスタント養成講座のご案内

現在コーチングアシスタント養成講座（秋期）のお申込みを受付しております。

本資格はスポーツリーダー資格に代わって本年新設された資格で、スポーツ指導や運営に関する基礎的な知識をNHK学園の通信講座で学習します。

スポーツ指導者資格を初めて取得する方を対象とした資格であり、時間に余裕をもって自分のペースで学習が可能であること、また、当協会養成資格の中でも短期間で取得可能であることが特徴です。

詳細は下記HPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

[https://www.n-gaku.jp/life/course/coaching\\_assistant](https://www.n-gaku.jp/life/course/coaching_assistant)

※お申込みにあたっては、当協会「指導者マイページ」への登録が必要です。

### 「実践！グッドコーチング〔ジュニア指導編〕～ハラスメントのないスポーツ指導のために～」発刊のご案内

本書は、昨年6月に発刊された第1弾に続く第2弾となり、主にジュニア（小学・中学・高校生）指導におけるケースに対する解説に加えて、新たに「グッドコーチになるために」と題したアドバイスを追加しています。

ぜひ、各種研修や自習時の教材として活用してください。

なお、本書は書店では販売しておりません。お求めの際は、特設サイトからご注文ください（試読や第1弾の注文も可能です）。

また、現在、PHP研究所では、本書を活用したオンライン研修やEラーニングを検討中ですので、詳細については同社へお問合せください。

書籍の詳細や購入はこちらから

<https://www.php.co.jp/goodcoaching/>

[本書に関する問合せ先]

PHP研究所 直販普及本部 企画普及部 茂原（もはら）

TEL:075-681-8733